

# 温泉観光地のライフサイクルにみる 景観形成過程と周囲への波及効果

-熊本県阿蘇郡南小国町黒川温泉地区における観光地形成過程に関する研究-



大分大学工学部創生工学科建築学コース  
都市計画・地域デザイン研究室+姫野由香

2257452 吉本怜真

# 1. 研究の背景と目的

観光地空間は、**観光需要の変動による影響を受けやすい**

廃業した大型施設の廃屋化による景観の悪化や  
無秩序な外部資本の参入による景観の同質化などの事例がみられる<sup>1)</sup>

行政主導による一時的なハード整備だけでは観光需要の変化に対応できず、  
地域主体による「長期的な」視点での環境整備が不可欠である<sup>2)</sup>

住民や観光事業者、行政が**協働**し、長期的な視点で環境を保全、再生することが重要



図1 観光地の廃屋<sup>3)</sup> (栃木県日光市)



図2 景観の同質化 (大分県由布市)

注1)黒川温泉観光旅館協同組合,自治会,旅館事業者,地元住民などを指す

1)西村幸夫(2009.2)「観光まちづくり まち自慢からはじまる地域マネジメント」

2)大川恵理子,坂井文,越澤明(2011.6)「定山溪温泉における地域主導による環境整備の変遷と特色について」日本建築学会技術報告集 第17巻 第36号, 677-680, 2011年6月AIJ J. Technol. Des. Vol. 17, No.36, 677-680, Jun., 2011

3)国土交通省住宅局(2019.12)「街なみ環境整備事業パンフレット」

4)黒川温泉観光旅館協同組合 (2012.3)「黒川温泉観光旅館協同組合設立 50周年記念誌」

# 1. 研究の背景と目的

観光地空間は、**観光需要の変動による影響を受けやすい**

廃業した大型施設の廃屋化による景観の悪化や  
無秩序な外部資本の参入による景観の同質化などの事例がみられる<sup>1)</sup>

行政主導による一時的なハード整備だけでは観光需要の変化に対応できず、  
地域主体による「長期的な」視点での環境整備が不可欠である<sup>2)</sup>

住民や観光事業者、行政が**協働し**、長期的な視点で環境を保全、再生することが重要

**研究対象地：熊本県阿蘇郡南小国町黒川温泉地区**

**地域主体**<sup>注1)</sup>による自立的な観光まちづくりが行われ、急激な観光地化の時期  
においても、**地域景観の保全や地域の生活文化の継承を実現**してきた<sup>4)</sup>事例

**目的：黒川温泉地区における観光地形成の過程とその特徴を明らかにする**

注1)黒川温泉観光旅館協同組合、自治会、旅館事業者、地元住民などを指す

1)西村幸夫(2009.2)「観光まちづくり まち自慢からはじまる地域マネジメント」

2)大川恵理子、坂井文、越澤明(2011.6)「定山溪温泉における地域主導による環境整備の変遷と特色について」日本建築学会技術報告集 第17巻 第36号, 677-680, 2011年6月AIJ J. Technol. Des. Vol. 17, No.36, 677-680, Jun., 2011

3)国土交通省住宅局(2019.12)「街なみ環境整備事業パンフレット」

4)黒川温泉観光旅館協同組合(2012.3)「黒川温泉観光旅館協同組合設立50周年記念誌」

## 2. 研究の方法

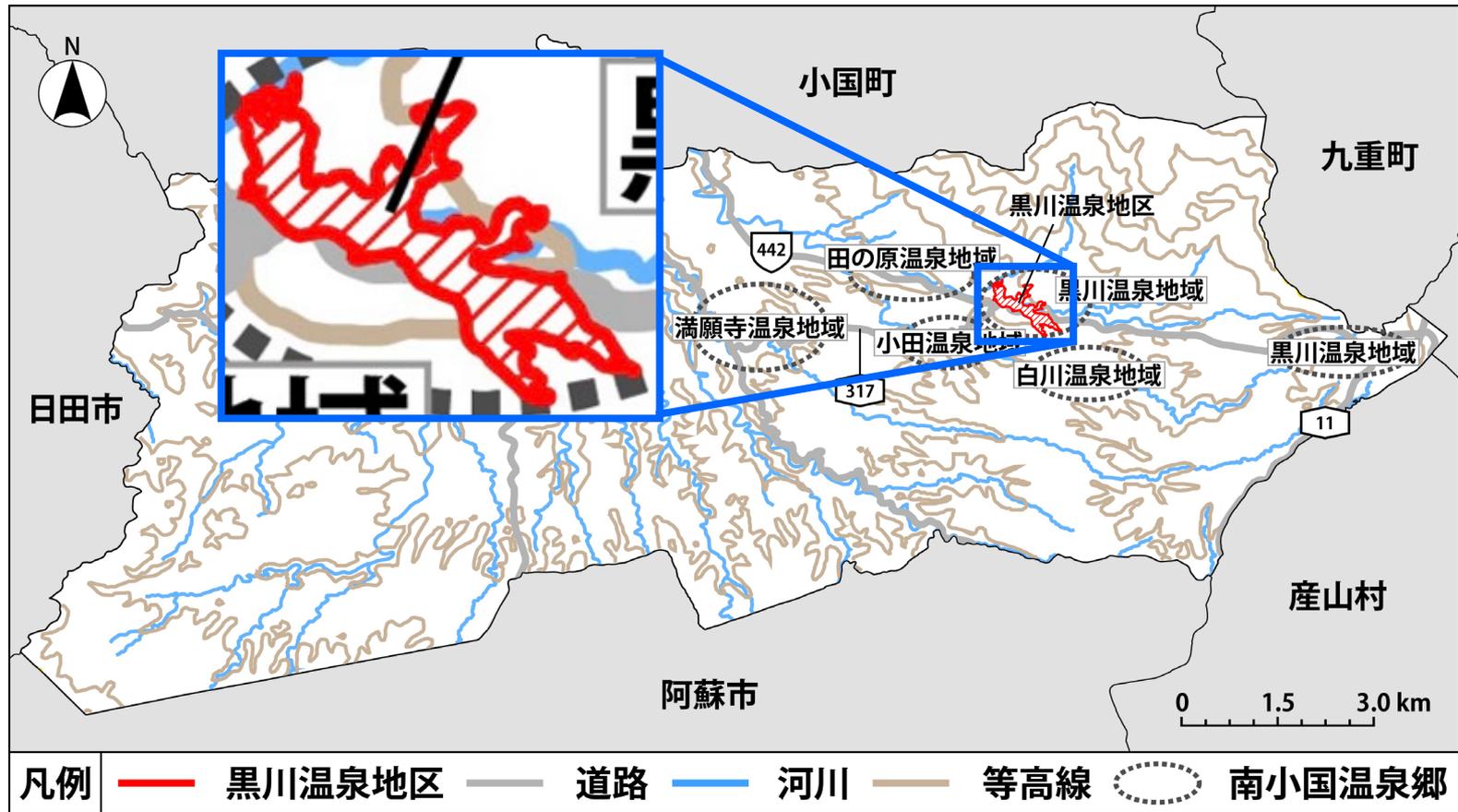


図3 南小国町における黒川温泉地区

【3章】 黒川温泉地区の**観光地としてのライフサイクル**を把握する(3-1)

**巨視的な視点から**観光インフラの整備動向を分析し, 黒川温泉地区における観光地形成が周辺地域に及ぼした影響を明らかにする(3-2)

【4章】 **微視的な視点から**, 黒川温泉地区の土地利用の変遷と修景要素の分布を把握する

以上より, 黒川温泉地区における観光地形成の過程とその特徴を明らかにする

# 3-1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル

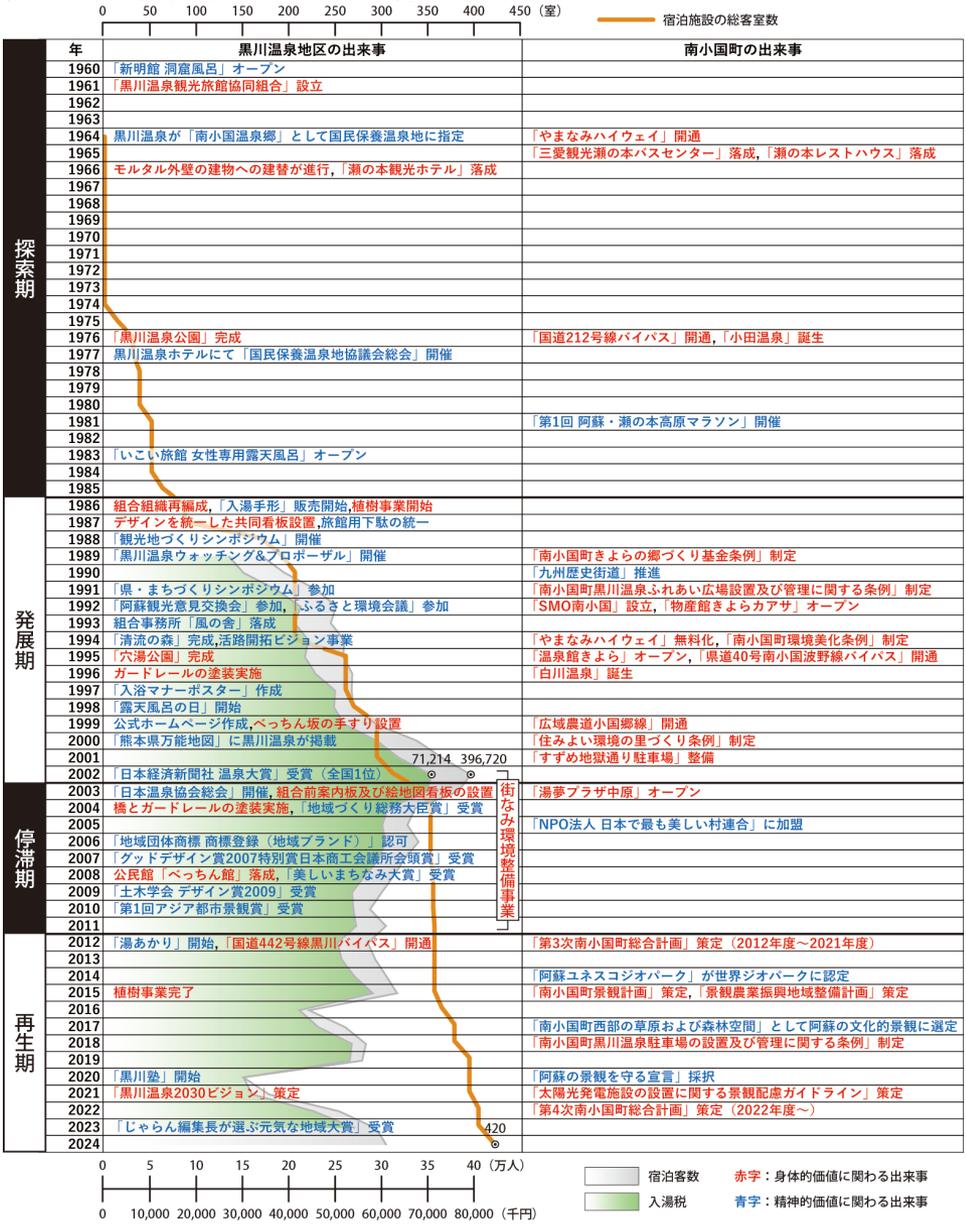
観光地形成の過程を明らかにするため、**観光地の価値<sup>5)</sup>の変遷**と**取り組みの変遷**に着目して分析した

- ### 観光地の価値の変遷
- ・ 宿泊客数
  - ・ 入湯税
  - ・ 宿泊施設の総客室数

探索期, 発展期, 停滞期, 再生期の4つの期間に区分した

- ### 取り組みの変遷
- ・ **身体的価値**  
施設整備や計画策定など
  - ・ **精神的価値**  
イベントの開催や賞の受賞など

表1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル



5) 安島博幸(2014)「観光地の価値の生成過程に関する理論的考察」日本観光研究会全国大会学術論文集, pp.285-288

# 3-1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル

**探索期(1960年~1985年)**  
 道路整備による**身体的価値**の向上  
 活動の主体を担う温泉組合の設立

**発展期(1986年~2002年)**  
 旅館組合による**環境整備**  
 町全体では,**道路開通**や**条例策定**

表1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル

年	黒川温泉地区の出来事	南小国町の出来事
1960	新明館 洞窟風呂 オープン	
1961	黒川温泉観光旅館協同組合 設立	
1962		
1963		
1964	黒川温泉が「南小国温泉郷」として国民保養温泉地に指定	「やまなみハイウェイ」開通
1965		「三愛観光瀬の本バスセンター」落成、「瀬の本レストハウス」落成
1966	モルタル外壁の建物への建替が進行、「瀬の本観光ホテル」落成	
1967		
1968		
1969		
1970		
1971		
1972		
1973		
1974		
1975		
1976	「黒川温泉公園」完成	「国道212号線バイパス」開通、「小田温泉」誕生
1977	黒川温泉ホテルにて「国民保養温泉地協議会総会」開催	
1978		
1979		
1980		
1981		「第1回 阿蘇・瀬の本高原マラソン」開催
1982		
1983	「いこい旅館 女性専用露天風呂」オープン	
1984		
1985		

年	黒川温泉地区の出来事	南小国町の出来事
1986	組合組織再編成, 「入湯手形」販売開始, 植樹事業開始	
1987	デザインを統一した共同看板設置, 旅館用下駄の統一	
1988	「観光地づくりシンポジウム」開催	
1989	「黒川温泉ウォッチング&プロポーザル」開催	「南小国町きよらの郷づくり基金条例」制定
1990		「九州歴史街道」推進
1991	「県・まちづくりシンポジウム」参加	「南小国町黒川温泉ふれあい広場設置及び管理に関する条例」制定
1992	「阿蘇観光意見交換会」参加, 「ふるさと環境会議」参加	「SMO南小国」設立, 「物産館きよらかアサ」オープン
1993	組合事務所「風の舎」落成	
1994	「清流の森」完成, 活路開拓ビジョン事業	「やまなみハイウェイ」無料化, 「南小国町環境美化条例」制定
1995	「穴湯公園」完成	「温泉館きよら」オープン, 「県道40号南小国波野線バイパス」開通
1996	ガードレールの塗装実施	「白川温泉」誕生
1997	「入浴マナーポスター」作成	
1998	「露天風呂の日」開始	
1999	公式ホームページ作成, べっちゃん坂の手すり設置	「広域農道小国郷線」開通
2000	「熊本県万能地図」に黒川温泉が掲載	「住みよい環境の里づくり条例」制定
2001		「すずめ地獄通り駐車場」整備
2002	「日本経済新聞社 温泉大賞」受賞 (全国1位)	

発展期



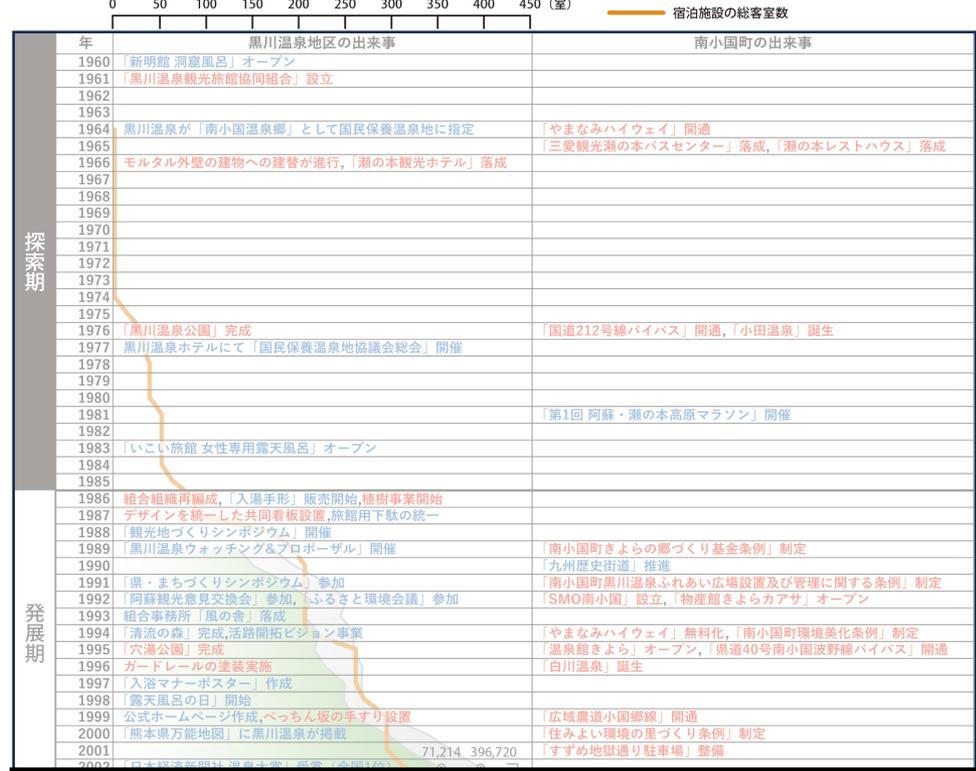
# 3-1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル

**探索期**(1960年~1985年)  
 道路整備による**身体的価値**の向上  
 活動の主体を担う温泉組合の設立

**発展期**(1986年~2002年)  
 旅館組合による**環境整備**  
 町全体では,**道路開通**や**条例策定**

**停滞期**(2003年~2011年)  
 多数の主体の協働による「**街なみ環境整備事業**」と各種賞の**受賞**

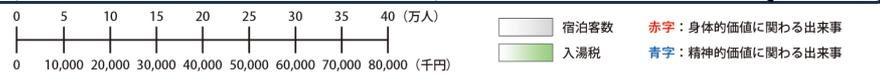
表1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル



年	黒川温泉地区の出来事	南小国町の出来事
2003	「日本温泉協会総会」開催, 組合前案内板及び給地図看板の設置	「湯夢プラザ中原」オープン
2004	橋とガードレールの塗装実施, 地域づくり総務大臣賞 受賞	
2005		「NPO法人 日本で最も美しい村連合」に加盟
2006	地域団体商標「商標登録(地域ブランド)」認可	
2007	グッドデザイン賞2007特別賞日本商工会議所会頭賞 受賞	
2008	公民館「べっちゃん館」落成, 美しいまちなみ大賞 受賞	
2009	土木学会 デザイン賞2009 受賞	
2010	第1回アジア都市景観賞 受賞	
2011		

停滞期

街なみ環境整備事業



赤字: 身体的価値に関わる出来事  
 青字: 精神的価値に関わる出来事

# 3-1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル

**探索期**(1960年~1985年)  
 道路整備による**身体的価値**の向上  
 活動の主体を担う温泉組合の設立

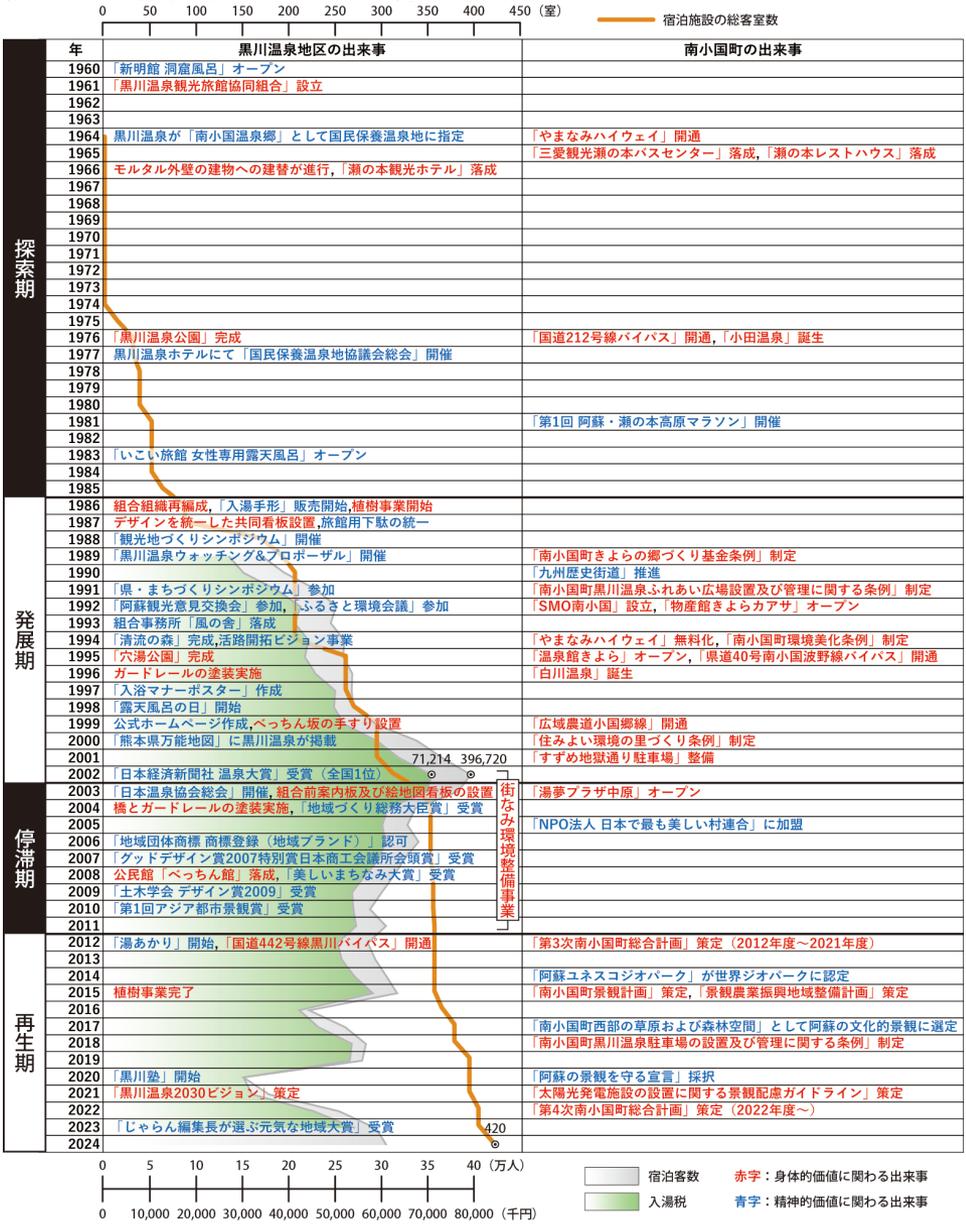
**発展期**(1986年~2002年)  
 旅館組合による**環境整備**  
 町全体では、**道路開通**や**条例策定**

**停滞期**(2003年~2011年)  
 多数の主体の協働による「**街なみ環境整備事業**」と各種賞の**受賞**

**再生期**(2012年~2025年)  
 バイパスの開通や「湯あかり」開始  
 町全体では、特に**身体的価値**が向上

発展期のみならず停滞期においても**継続的に身体的価値**を向上させる取り組みが行われた。

表1 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル



# 3-2 観光インフラの整備動向からみる周辺地域への影響

黒川温泉地区における観光地形成が周辺地域に及ぼした影響を明らかにするため、観光インフラ（**宿泊施設, 道路, 観光資源**）の整備動向を分析する

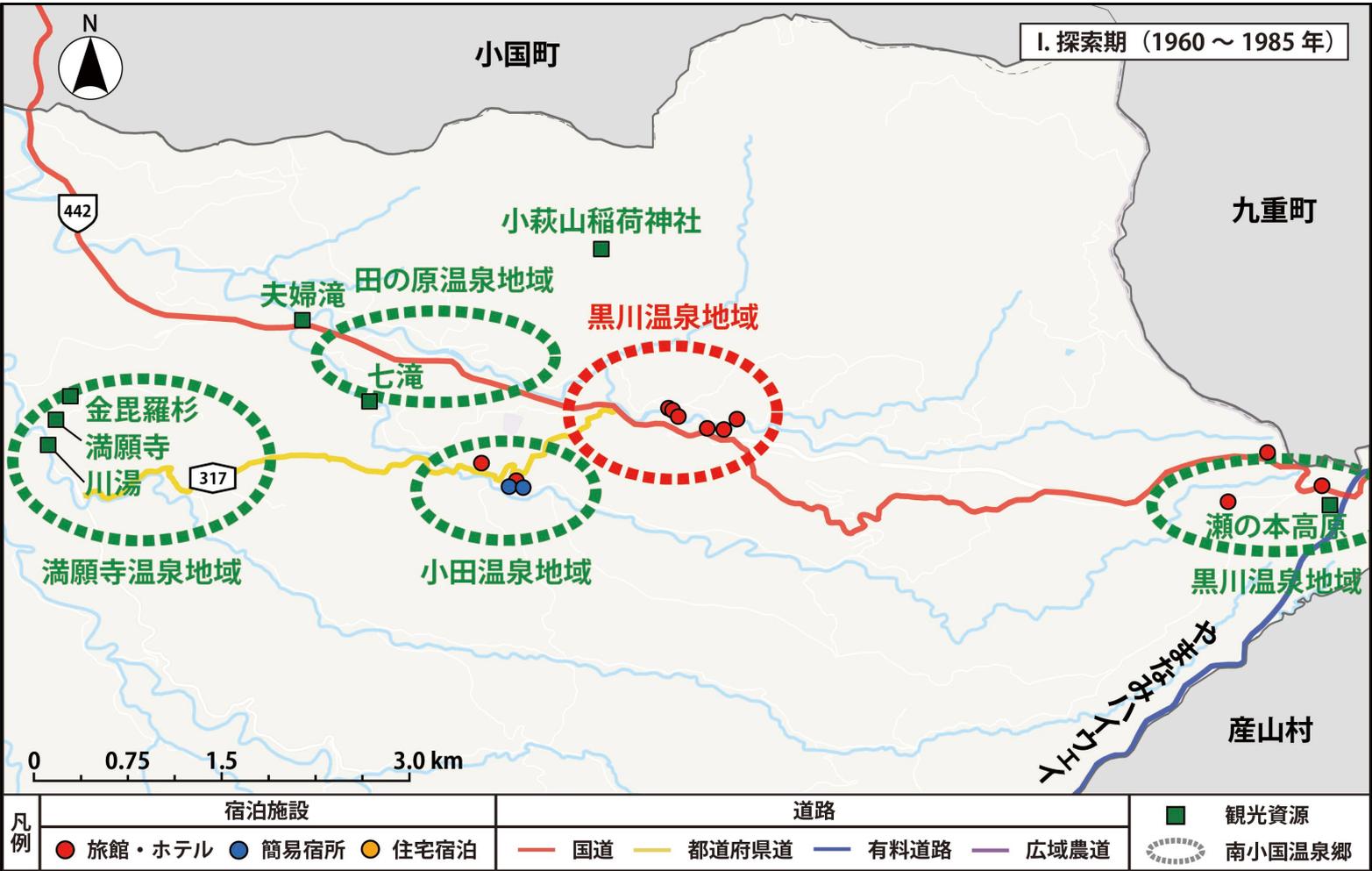


図4 観光インフラの整備動向(探索期)

【探索期】 黒川温泉地域を中心とした観光地形成が始まった

# 3-2 観光インフラの整備動向からみる周辺地域への影響

黒川温泉地区における観光地形成が周辺地域に及ぼした影響を明らかにするため、観光インフラ（**宿泊施設, 道路, 観光資源**）の整備動向を分析する

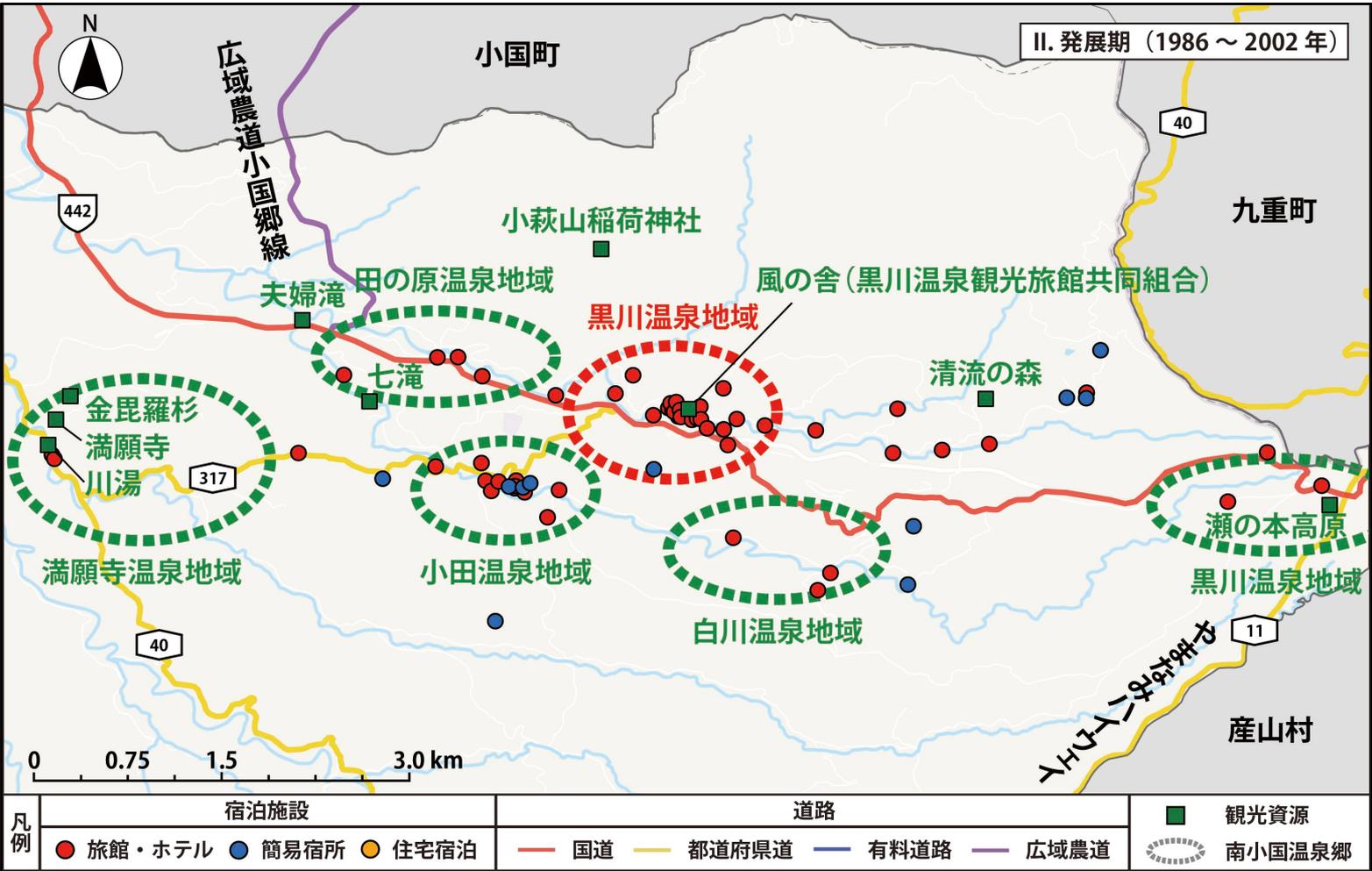


図5 観光インフラの整備動向(発展期)

【発展期】 道路網の拡充を契機として温泉地域とその外側で宿泊施設の増加

# 3-2 観光インフラの整備動向からみる周辺地域への影響

黒川温泉地区における観光地形成が周辺地域に及ぼした影響を明らかにするため、観光インフラ（**宿泊施設, 道路, 観光資源**）の整備動向を分析する

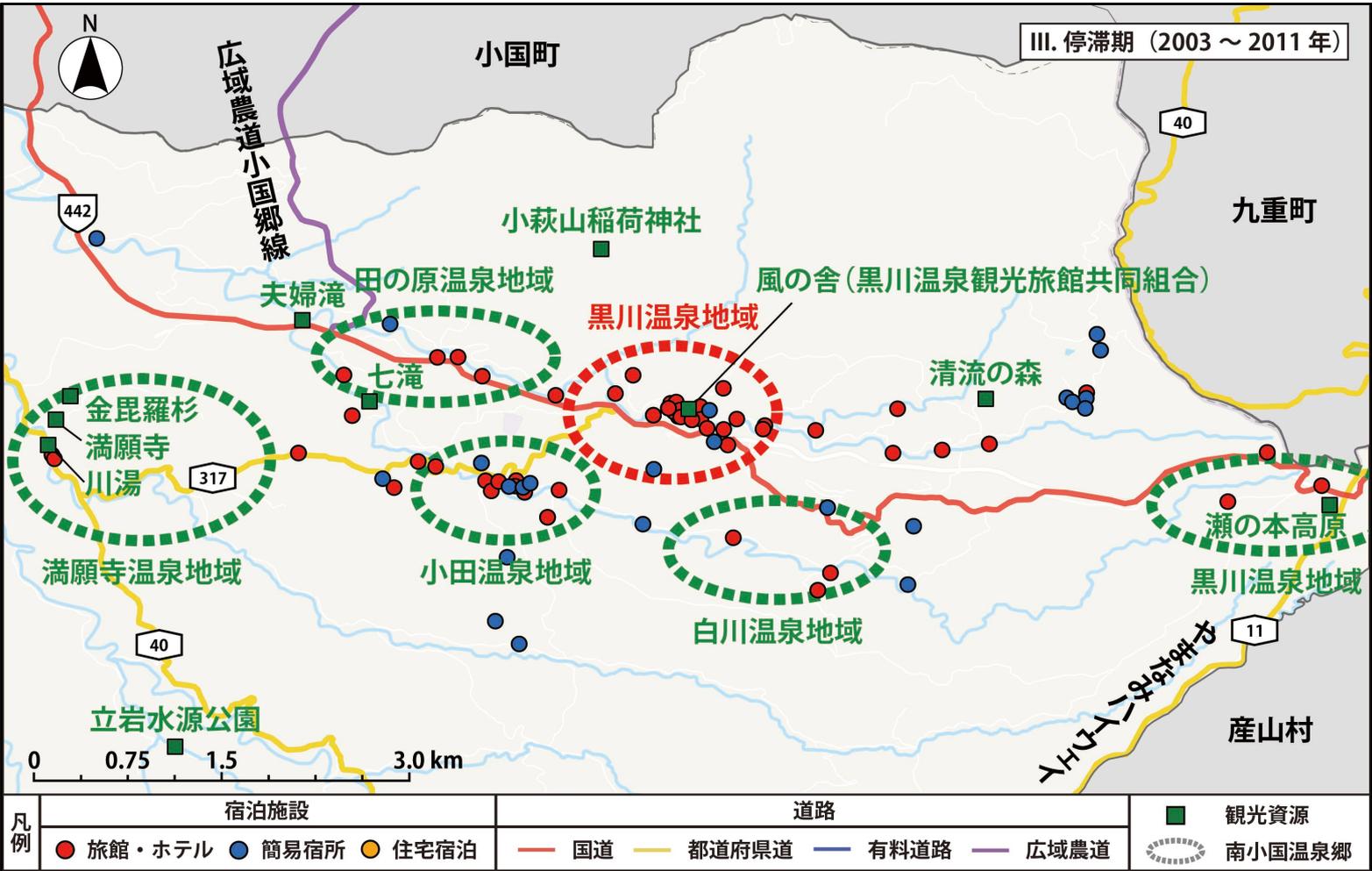


図6 観光インフラの整備動向(停滞期)

【停滞期】 温泉地域の範囲外での宿泊施設の増加傾向が見られる

# 3-2 観光インフラの整備動向からみる周辺地域への影響

黒川温泉地区における観光地形成が周辺地域に及ぼした影響を明らかにするため、観光インフラ（**宿泊施設, 道路, 観光資源**）の整備動向を分析する

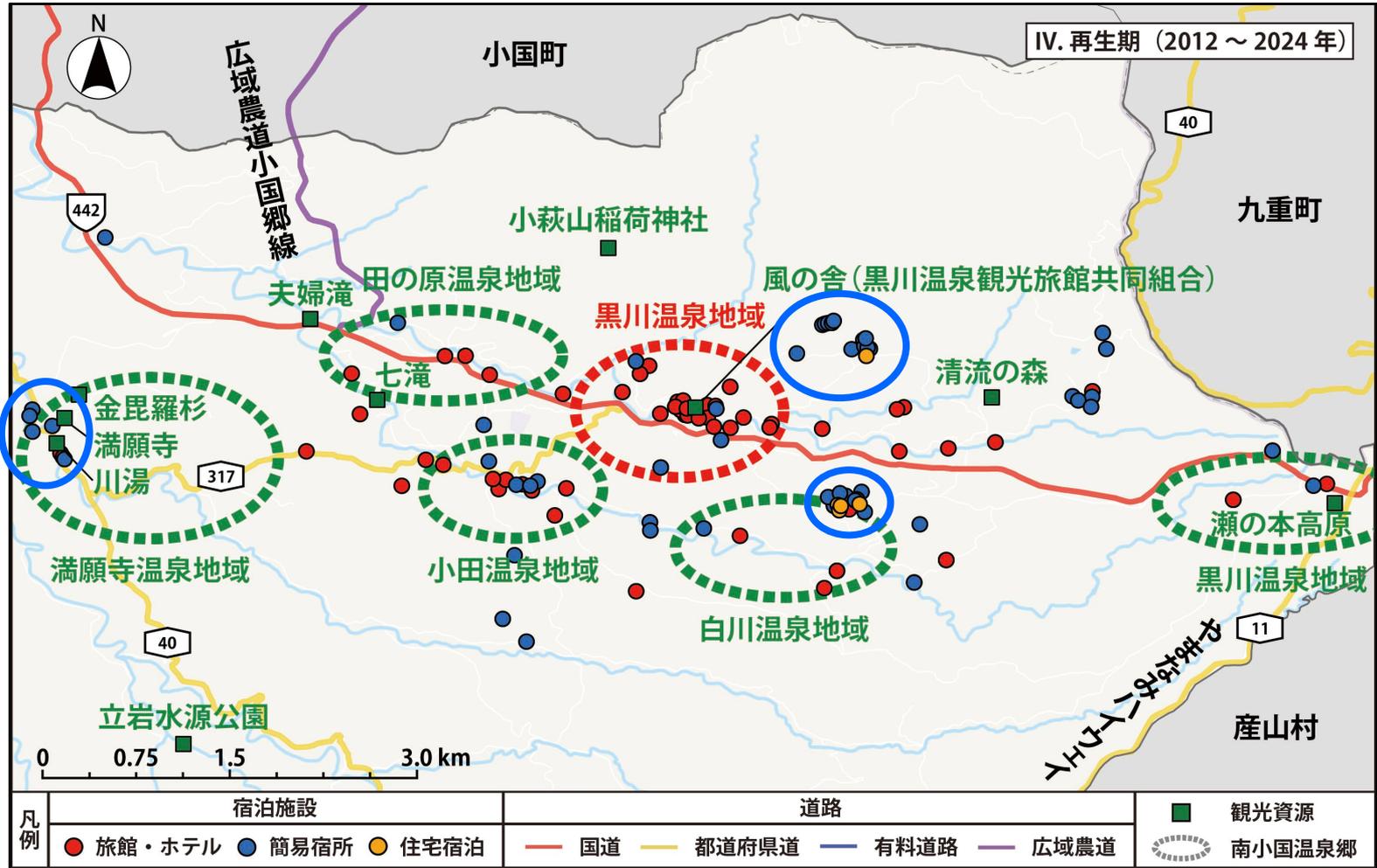


図7 観光インフラの整備動向(再生期)

**【再生期】** 簡易宿所や住宅宿泊の急増が見られる  
 周辺地域での予期せぬ観光開発により地域景観が喪失する可能性が考えられる

## 4. 黒川温泉地区における土地利用の変遷と修景要素の分布

土地利用：建物用地, 農地, 遊歩道, 公園, 駐車場

修景要素：共同看板, 植栽, 街なみ環境整備事業



図8 土地利用状況および修景要素の分布(2025)

土地利用に関する要素や修景要素が集積している (a) の範囲を拡大して考察した

# 4. 黒川温泉地区における土地利用の変遷と修景要素の分布

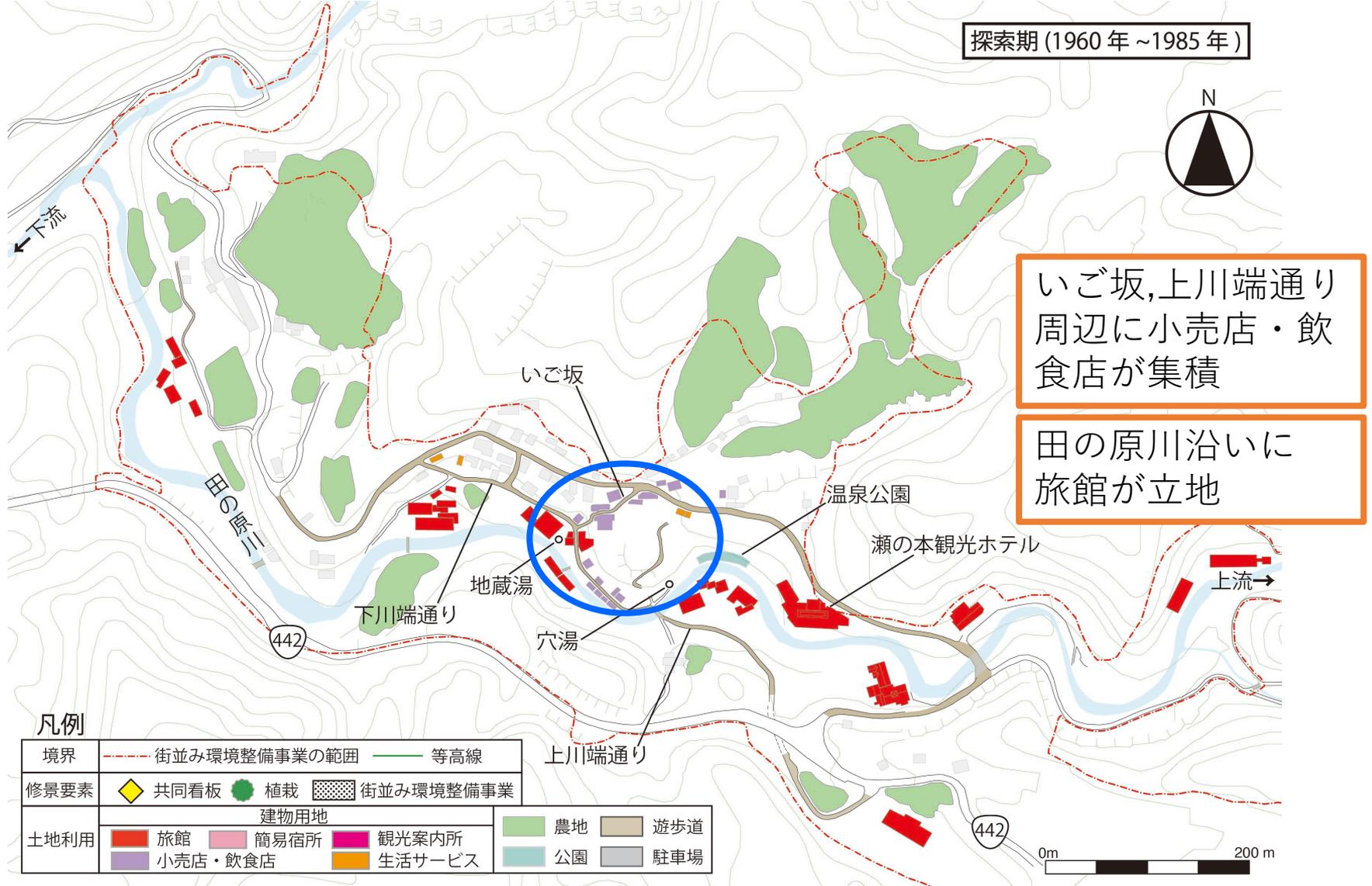


図9 土地利用状況および修景要素の分布(探索期)

【探索期】 共同湯や川浴いを中心に観光地空間が形成されていた

# 4. 黒川温泉地区における土地利用の変遷と修景要素の分布

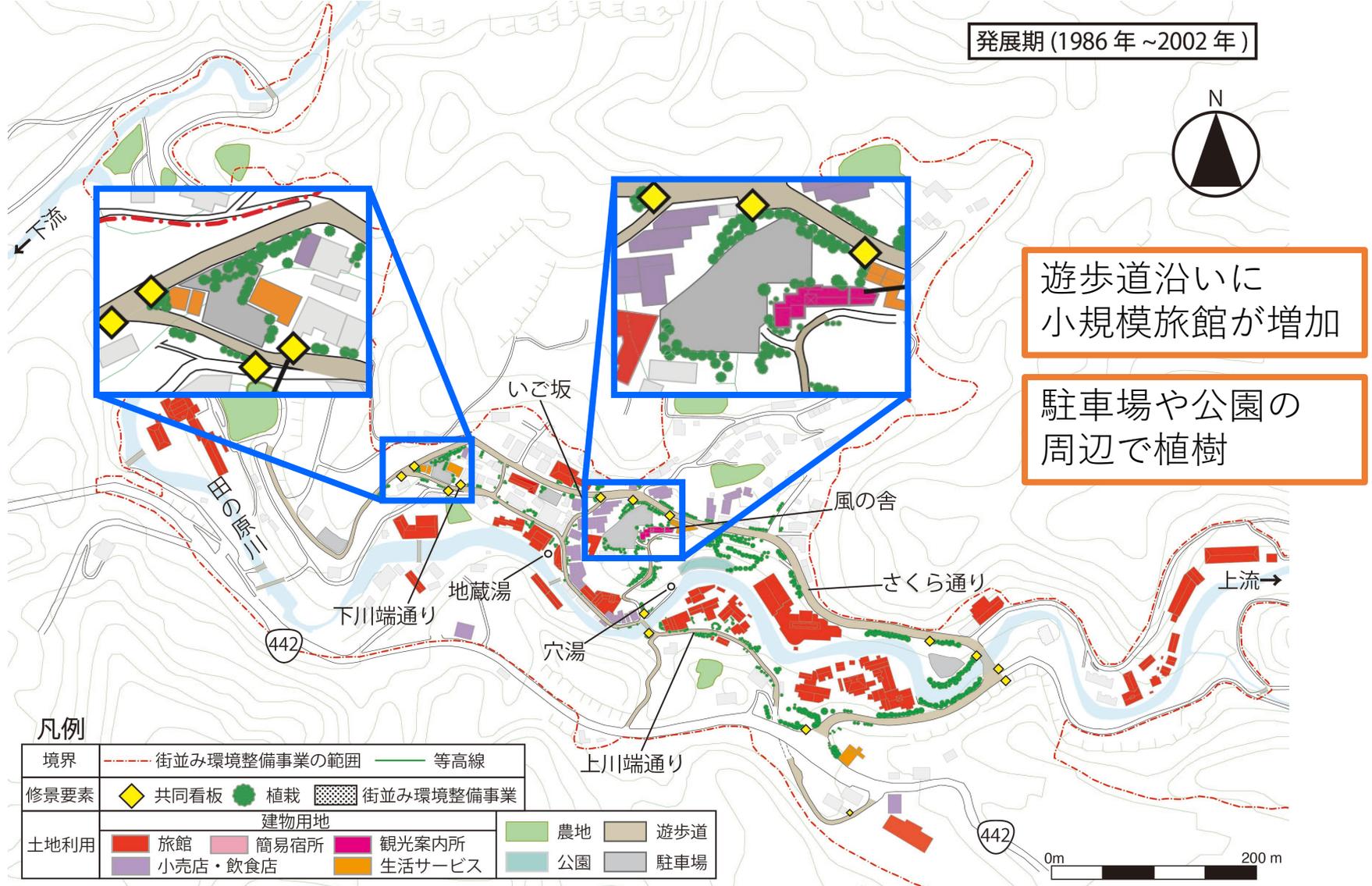


図10 土地利用状況および修景要素の分布(発展期)

【発展期】土地利用が大きく変化し、現在の黒川温泉の骨格が形成された

# 4. 黒川温泉地区における土地利用の変遷と修景要素の分布

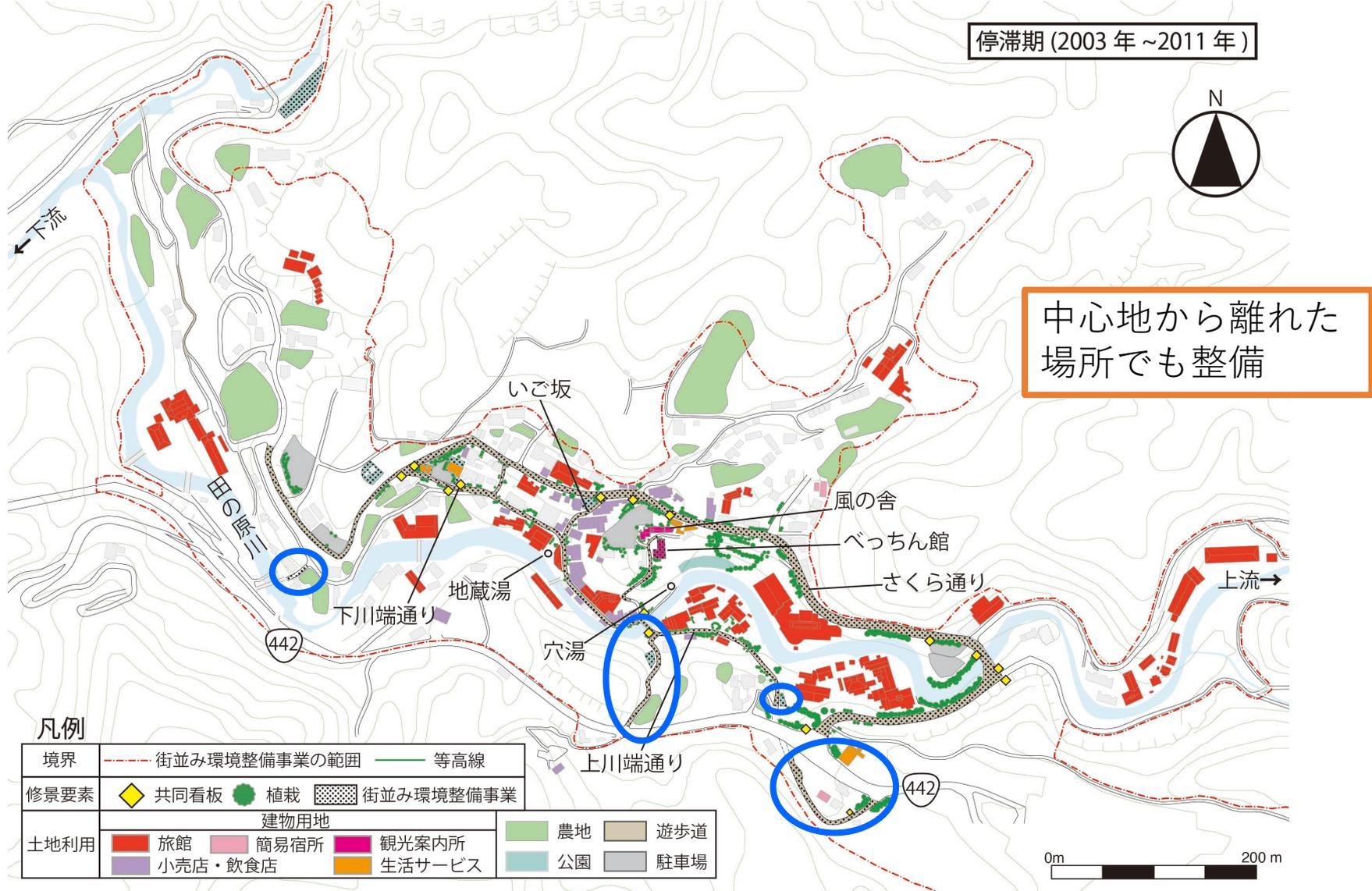
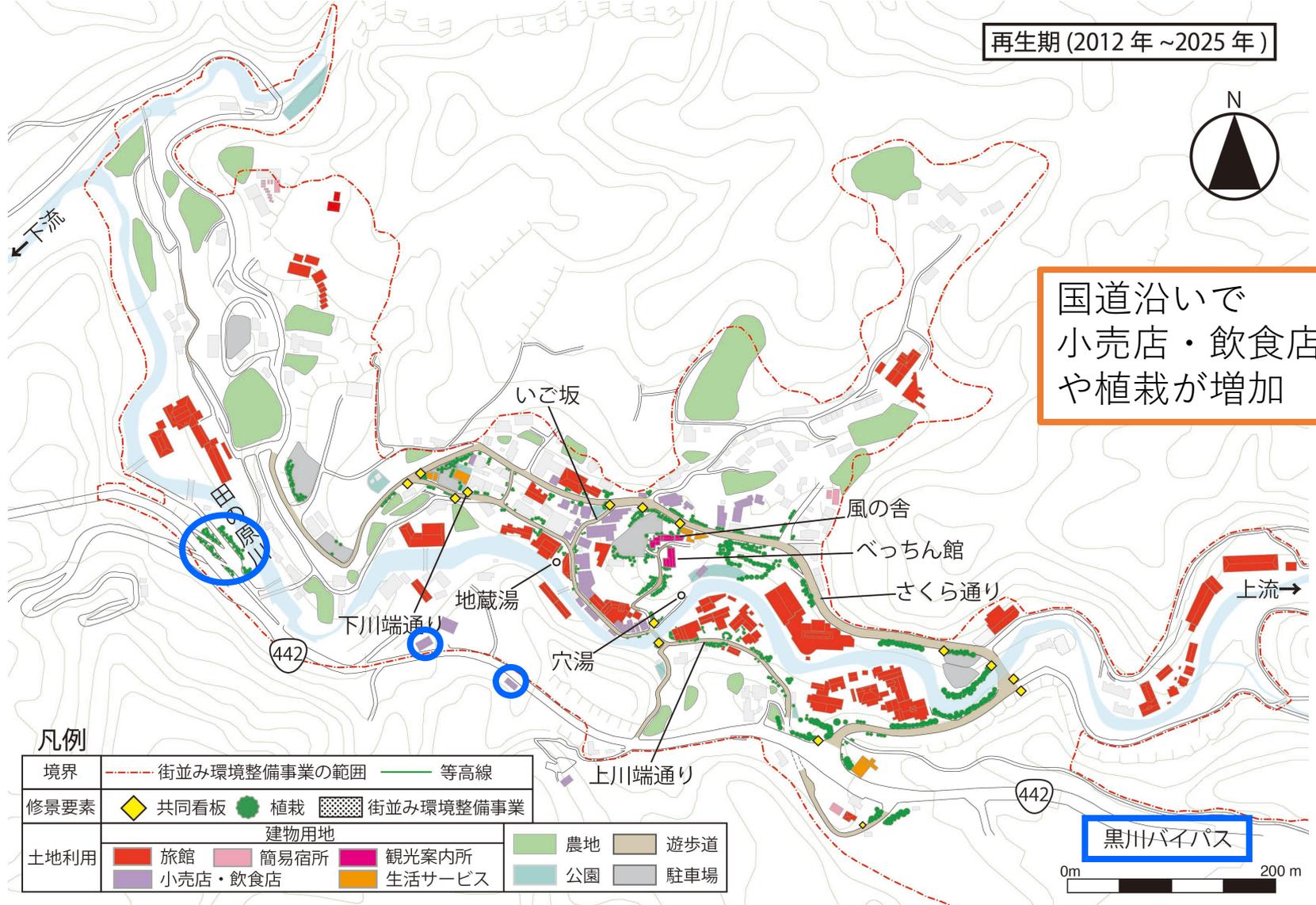


図11 土地利用状況および修景要素の分布(停滞期)

**【停滞期】** 街並み景観の高質化に加え、住環境の向上も図るため、街なみ環境整備事業が行われた

# 4. 黒川温泉地区における土地利用の変遷と修景要素の分布



国道沿いで  
小売店・飲食店  
や植栽が増加

図12 土地利用状況および修景要素の分布(再生期)

【再生期】 中心地から離れた国道周辺において観光客の受け入れ空間が整備された

# 5. 総括

## 黒川温泉地区における観光地としてのライフサイクル(3章 3-1)

- 探索期・発展期・停滞期・再生期の**4つの期間**に分けることができた。
- 探索期や発展期だけでなく**停滞期においても**、**施設整備**や**計画策定**などの**身体的価値**を向上させる取り組みが**継続的に行われた**

## 観光インフラの整備動向からみる周辺地域への影響(3章 3-2)

- 探索期に**黒川温泉地域を中心とした観光地形成**が始まり、  
発展期以降の**道路網の拡充とともに周辺地域へ波及した**ことが確認できた
- **周辺の予期せぬ観光開発**により地域景観が喪失する可能性が考えられた

## 黒川温泉地区における土地利用と修景要素の分布(4章)

- 探索期には川沿いや共同湯周辺で観光地空間が形成され、  
**発展期**に小規模旅館が川沿いへ拡張し、**その構造が現在まで維持されている**
- 修景は**中心から周辺部へ段階的**に行われた